

八代市長
中村博生 様

令和5年4月27日
八代市厚生会館のホール再開を求める会
共同代表 丸山久美子
佐藤士郎
磯田節子
甲斐田栄
木田哲次

八代市厚生会館「閉館」方針に対する抗議文

本日の記者会見において、中村市長は八代市厚生会館について「閉館することを決定した」と発表されました。さらに、報道機関の取材に対して「その後は解体する」という発言もされたと聞き及んでおります。

八代市厚生会館は、近代建築史における重要性、国内外の演奏家らが絶賛する音響の良さ、能などの古典芸能を正式な形で上演できる上質な設備をそれぞれ備えているほか、何よりも多くの市民がたくさんの思い出と記憶を持っており、築60年の単なるコンクリート建造物というだけでは収まらないホールであることは、市も理解されていると信じております。こうした八代市、ひいては県南の文化の殿堂でもある厚生会館を「八代の宝」と呼ぶ以外に、どのような呼び方があるのでしょうか。

また、芦原義信氏が設計したこの厚生会館の周囲には、伊東豊雄氏設計の「八代市立博物館未来の森ミュージアム」や若手建築家の平田晃久氏による「お祭りでんでん館」など我が国を代表する建築家による作品が連なるだけでなく、八代城址や松浜軒なども集積する区域であり、このような建築的に贅沢な空間は他では見ることができない八代独特のものです。こうした区域から厚生会館をなくしてしまうことは、八代市の魅力の「磨き上げ」に逆行するどころか、魅力の半減につながるものです。

つまり、厚生会館はそれ単体の価値の高さは元より、この場に存し続けることでその価値が複層的に増し、他に「機能移転」なることができる存在ではありません。

さらに、費用のかかる耐震改修もすでに終えて震度7に耐えられるにもかかわらず、これを利用しないのは、まさに「もったいない」の極みです。

八代市が令和3年春に突然、八代市厚生会館のホール利用中止を公表して以降、多くの市民から「納得できない」「利用させてほしい」という声が上がリ、それは1万筆を超える「ホー

ル再開を求める署名」になりました。その数年前から市はすでに必要な改修・補修をしないでいただけでなく、ホール利用中止が政策決定されるまでの過程も疑問が数多く残ったままです。改修費として試算されている約20億円についても、数年かけて計画的に改修するといった長寿命化がなぜ検討されないのか、これも疑問です。

八代市議会でも与野党双方の議員から「市民の理解を得る努力をしてほしい」と再三指摘されてきました。市はようやく昨年9月に内部見学会、同11月に意見交換会を市民向けに開催しましたが、「八代の宝をなぜ市民に利用させないのか」といった多くの疑問は解消されな

いまです。そして本日、突然、今度は「閉館」という発表がされました。市民の財産であり、「八代の宝」でもある八代市厚生会館が、広範な市民の納得もないまま「閉館」とされることに対して、最大限の言葉を持って抗議するとともに、その撤回を強く求めます。